

竜王北小学校 学校関係者評価書

竜王北小学校学校関係者評価委員会作成

学校関係者評価委員会

実施日 令和2年2月14日（金）午後3時～4時

場 所 竜王北小学校 校長室

参加者 （学校関係者評価委員） 長谷川浩三 田中奈美 一瀬道子 梅原尚子
（学校職員） 校長 廣瀬昇 教頭 増坪広夫

I 学校側から

- ・自己評価書および保護者用・児童用アンケートをもとに、全体評価に関わる学校の取り組み、児童の様子についての説明が行われた。

II 協議内容

- ・自己評価書等アンケートの内容について
- ・地域、家庭での児童の生活実態について
- ・今後の課題について

〈学校関係者評価書〉

I 学校側から

（1）学習指導の充実と向上に努める。【知育】

○わかる授業の実践（基礎基本の定着を図る授業を行っている）

・肯定率が100%であり、担任が教材や児童の実態に応じて、指導法を工夫している。児童アンケートの「授業が楽しいですか」（94%）「先生はよく勉強を教えてくださいますか」（98%）と高いポイントを維持しており、授業力向上に努めている成果が表れている。しかしながら、「授業が楽しくない」「授業がわからない」と感じている児童がいることを真摯に捉え、更なる改善に取り組む。

・「質問や意見が出る授業」を実施していくために、自信を持って発言しあえる学級づくりや授業規律の構築を進めていきたい。

○宿題と家庭学習の推進（宿題や家庭学習に対する指導を行っている）

・肯定率が100%であり、学習した内容の復習を中心に自主学習（自学）に取り組ませている。児童アンケートの「平日の家庭学習の時間（学年の目標時間の達成）」85%は昨年より6ポイント上昇したが、「あまりしていない」「していない」という回答が15%ほどあるので、更に家庭との連携を図り個別指導に努めたい。

○個に応じたきめ細かな指導（個に配慮した授業を行っている）

・全教員がきめ細かな指導によって学習意欲を高めていると回答しており、不適応支援担当や甲斐市からの支援員を活用し、TT指導・補充学習・取り出し指導等に努めている。

○朝のおはようタイムの充実（15分間タイムが効率的に機能しているか）

・肯定率が100%である。8時25分からの15分間であるが、月・金は読書、火・水・木は、5・6年生は外国語の短時間学習、それ以外の学年は自主学習に取り組んでいる。短時間であるが、効率的に作業が行われ、積み重ねの成果が大きい。今年度は新指導要領に対応するため13:45～14:00までのモジュールの時間に変更している。

(2) 心の教育の充実に努める。【徳育】

○本物体験（地域人材や施設を活用し、教育力を生かす指導を行っている）

・肯定率が93.6%と昨年より12ポイント上昇し、それぞれの学年が地域人材を活かした教育活動を行っている。学校教育への理解を図るため、各教科、道徳等においても、更なる地域や保護者との連携と活用に取り組みたい。また、人材確保の労力を低減するためにも、学校応援団の組織化について具体化していく。

○声かけ、あいさつ運動

・児童会活動であいさつ運動の取り組みを続けている。毎朝玄関前には、当番のクラスが出て登校してくる児童を迎え、元気なあいさつが響いている。児童アンケート「地域の人にあいさつをしていますか」の肯定率は90.9%で昨年より7ポイント上昇し、よくあいさつをしている場面を見かけるが、反面、地域の方や保護者に自分から進んであいさつができない場面も見受けられた。

○音楽活動の充実（音楽の広場は効果的に実施され、児童に有益である）

・肯定率が97%であった。日々の吹奏楽部の活動とあいまって、音楽会も大変盛り上がり、音楽を通して心を育てる効果につながっている。

(3) 健康・安全教育と体力の向上に努める。【体育】

○体育活動の充実（体育の広場は効果的に実施され、有益である）

・肯定率が96%であった。年間を通して、ラジオ体操や竜北マラソンによる体力づくりを行っている。また、クラス単位での長縄大会は、クラス目標に取り組む過程で、体力づくりとともに仲間づくりにもつながる活動になっている。

II 協議内容

○自己評価、児童・保護者アンケートの結果から、本校の教育活動が全体的には望ましい方向に進んでいると言える。今後は、A・Bの肯定的な評価を伸ばすことはもとより、C・Dの否定的な評価を減らしていく努力も大切である。保護者のCやDの回答を減らすためにも、学校からの情報発信が大切である。

○教職員の自己評価でAに比べてBの評価が多いものは、自分に対して少し厳しい評価をしてしまったものではないか。AとBを合わせて肯定的な評価と考えて差し支えないだろう。

○学校には新しい役割や教育課題が次々と与えられている。それらをこなすために、時には休み時間を使って活動しているということだが、それが子どもだけでなく職員にとっても大きな負担になっているであろうことが想像でき心配である。

○危機管理について、膨大な資料である「危機管理マニュアル」を常に身近に置き、熟知するのは非常に困難だと思う。ダイジェスト版を作成し、いつでも見られるようにすることで、職員の危機管理意識を高めていくような工夫もされたい。

○地域での子どもたちは、とても元気なように見える。地域の民生委員たちも、様々な方面で学校に協力できるので、ぜひ声をかけてもらい、ともに子どもを育てていきたい。

○先生方も前向きな意識でいねいに指導してもらい、児童もよい環境に恵まれている。学校の努力を、保護者として理解し、また周囲にも伝えていきたい。